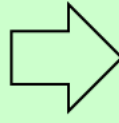


丁寧なほ場管理と効率的な作業により地域の水稲作を支える

～ ^{こうの}河野 ^{よしお}仁男氏(千葉県山武市) ～

経営体の概要

水稲専作前：平成13年度
 基幹作物：水稲、だいこん、ねぎ
 経営面積：7.6ha（田：5ha、畑：2.6ha）



現在：令和元年度
 基幹作物：水稲(主食用米、加工用米)
 経営面積：55ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体のほ場は、平成2年度に完了したほ場整備事業により、大型機械の導入が図られ、平成13年度には、国営かんがい排水事業等によって管路化され農業用水の安定供給が可能となり、以降、農地の集積を進める中で、丁寧な栽培管理が地域農家の信頼につながり堅調に経営規模の拡大が図られてきた。

経営においては、乾燥調整、糞処理等の施設の効率化とコスト低減を図り、また、ほ場特性に応じた品種選定、栽培の工夫を行いつつ地域農業を担う家族経営として経営の継承も模索している。

なお、過去において、地域の水稲収穫作業等を受託していた近隣のライスセンターが解散したことを背景に、水稲と野菜の複合経営から水稲単作に転換しており、本地域における家族経営体による水稲単作の先導的事例となっている。

営農改善のポイント

① 作物の変化

家族経営であるため、作業効率を考慮する必要があるが、国営事業等により平成13年度から幹線用水路も管路化され、用水が安定供給されたことから、早生品種のふさおとめ、学校給食用米としてあきだわらなど複数の品種を計画的に作付けすることが可能となり、田植えや収穫作業の分散化により、効率的・効果的に作業を行っている。

また、防除作業も計画的に行うことで、家族経営で水稲55haと、経営規模拡大を実現している。

なお、ほ場の漏水や土壌特性など常に記録し、翌年の作付計画時に反映することで収量、品質向上を図っている。



丁寧に管理しているほ場

② 省力化

導入した大型機械の能力を活かすため、畦畔の除去に取り組むことや、当時普及していなかったフレコンバックを平成14年からいち早く導入するなど農作業・運搬の効率化を進め、水稲の作業時間を削減し効率化、省力化に努めている。



所有している大型トラクター

③ 地域への効果

常に新しい情報を収集し、良い品種を取り入れ、自ら実践するだけでなく、率先して取り組んだ新品種（にじのきらめき（平成30年品種登録出願））の導入試験結果を地域の農家へ情報提供することで、地域農業の発展に繋げている。

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市：香取市、茂原市、東金市外4市6町1村
 受益面積：17,970ha
 事業期間：平成5年度～平成26年度
 事業目的：用水改良、排水改良
 主要工事：頭首工1カ所、水門1カ所、揚水機場5カ所、
 排水機場1カ所、用水路L=89km、排水路L=6km

位置図(千葉県)



両総地区

<問い合わせ先>

関東農政局
 農村振興部農地整備課
 電話：048-600-0600
 (内線3537)

(令和元年度調査時点)